

「本当の私を生きる道を見つける」

家庭において「自分を生きる」というのはどういうことなのでしょう。

どうしたら子どもが自分の道を見つけて、自分を生きることができのかを考え、子と話しあうことが増えてきた時期に、「ほんとうの私を生きる」という校訓、教育方針の私立学校があることを知り、ぜひともこの学校で子どもを学ばせたいと思いました。ですので、第一志望校を決めたのは小学3年生頃だったかと思います。

その後、集団塾に通うも、第一志望校には程遠い成績で低迷していた時に、ユリウス K 教室の A 先生のお話を伺う機会に恵まれました。目指す最高の未来とつながるためには、受験を良く知るメンター（指導者）がさらに必要だと考えていたので、この先生だ（ユリウス K 教室）だ！と迷わず入塾のお願いに参りました。

ユリウスでは、実際に指導を受け持ってくださいました先生方のご指導が的確であったことは言うまでもないのですが、目指していた第一志望校の卒業生である先生方にご指導いただけたことは、子どもにとっては新鮮な刺激となり、憧れの先生に自分も近づきたいと、常に明るい未来をイメージし続けられたようでした。

結果的にポジティブに受験に臨めたことが、第一志望校合格の一番の勝因だったのではないかと振り返りましたが、第一希望校以外の複数の受験校は「すべて第二希望校」と子どもが思えるように、どの学校に通ったとしても楽しい自分の未来があるよと、未来予想図をいくつも子どもと描きました。

親から子どもに対して行ったアドバイスや勉強の手伝い等は一切ありません。子どもが授業に遅刻することが多かったときに、「先生との約束（時間）を守れないようなら受験をやめなさい」ということだけは強く言いました。

受験に必要なことはすべてユリウスの先生方から伺っていると確信していたので、不安にかられて色々飛び交う受験に関する情報等も一切集めませんでした。先生方からは、ずいぶんとのんびりとした緊張感のない親子にしか映らなかったのではと思いますが、私たち親子はユリウス K 教室の導きのおかげで安心して受験に臨めました。心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。中学進学後もお世話になりたく、引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

Wさん 保護者

「10年後の幸せ」

初めてユリウスを訪れたのは、上の娘の受験を考えている時期でした。上の子は小学1年の時にいじめから不登校になり、どうしても受験をしたいという本人の希望からチラシを頼りに見学に来たのがユリウスです。生徒に真剣に話をしている先生を見て、他の塾とは違うと直感が働きました。そして下の娘も迷わず入塾しました。下の娘は負けずぐらいで完璧主義な人間でした。入塾しても持ち前の負けずぐらいを発揮していましたが、5年生になり、サッカーの遠征で骨折、完治して骨折、入院、手術、そしてその後、コロナ後遺症になり、ねたきりになりました。親として受験をあきらめさせるべきか悩んでいた時、「本人が納得するかどうかなんです。成功や失敗ということよりも納得してほしい。10年後に幸せであってほしい。」という I 先生の言葉が響きました。「先生に合格を見せたい」娘の声で腹は決まり

ました。2月までは半分ねたきりで、耳だけで講義を受け戦いました。そして合格を頂くことができました。完璧主義だった子は、できない自分を受け入れ、できない自分を認めるようになりました。まだ完治はしていませんが、まちがいなく10年後は幸せであることでしょう。新たな自分として、娘はスタートラインに立つことができました。先生方、スタッフの皆さんには本当に心から感謝しています。ありがとうございました。

Mさん 保護者

「受験を通して小学校のうちに経験ができた事は娘にとっての一生の財産に」

小5春スタート。それまで学習系の塾には通っておらず、殆どの子が小4春スタートの中、この1年の穴埋めは大変でした。学校の勉強がしっかりできていれば受験ができると浅はかな考えでした。初めてテキストを開いたときには愕然とし、ついていけるか心配でした。案の定、成績が芳しくなく、授業についていくのが精一杯。何度もわからないと泣いていました。控えめで積極性に欠け、友達もなかなか作れませんでした。それでも塾は好きでした。学校よりも塾のほうが好きだと小5の頃から言います。その理由は先生方のプロフェッショナルさなのだと感じています。塾のほうが行く価値があると言います。先生方の中学受験へ導くメンタル面・学習面共に子供に対する指導力が素晴らしいのだと感じます。(最初から厳しすぎる塾だったら、辞めたいと言っていたかもしれません。)

スタートがコロナ禍だった事もあり、コロナ時間での時間割を最後まで行ってくれた為、受験塾には珍しく家族と食卓が囲める環境も有難かったです。少人数グループ制も娘には合っており、先生の目がしっかり届いている感じが致しました。

そんな娘でしたが、小6の夏休みから突然受験に対する本気スイッチが入り、自主学習時間が増えました。「死ぬ気で頑張る」という言葉を自分に課していました。夏休みの頑張りが秋には結果となり、模試の偏差値が1カ月で一気に上昇するという嬉しい成果として表れました。

今まで、本気で打ち込みたい事がみつからず、本気で頑張った事がなかった娘でしたが、受験を通して本気で頑張る事の大切さ、努力はすぐには結果として表れないかもしれないが、それでも諦めずに努力を重ねれば、必ず成果となり、その力が自分を支えてくれるという事を、受験を通して小学校のうちに経験ができた事は娘にとっての一生の財産になれたと感じています。

なかなか志望校への合格が取れずに親は焦ってしまいましたが、娘は落ち着いていて、転んでも立ち上がる姿に、学力だけでなく心も成長した姿が印象的でした。受験期間中もI先生をはじめ先生方がメンタル面、学習面共にサポートして下さり、この上ない心強さでした。

ユリウスT教室を選んで本当に良かったです。

大学はMARCH以上に行きたいという入塾前では考えられなかった目標も出てきました。中学生以降もユリウスT教室の塾に通いたいくらいです。笑

ユリウスT教室に通った2年間は、大人になっても忘れない貴重な経験と礎になったと感じています。先生方、本当にありがとうございました！！

Aさん 保護者

「何事にも自信がなかった娘が、学校生活で自信を持つようになったと担任から言われ」

1 入塾の経緯

3年生の頃、知り合いの勧めで、大手集団塾に少し通いましたが、1クラスの人数が多く、気が小さかった娘は質問も出来なかったので、個別や少人数クラスのあるユリウス M T教室に転塾しました。

娘はユリウスの温かい雰囲気や先生方との距離が近いことが気に入ったようでした。

2 4〜5年生から6年生への変化

4〜5年生の頃は、親に言われて勉強する、という感じで、受験を自分のことととらえていませんでした。6年生になって、学校見学で気に入った第一志望の学校ができてからは、少しは受験を意識し始めましたが、本格的に自主的にやり始めたのは、志望校面談のあった6年生の11月頃からだだと思います。面談で、先生から「第一志望を初日からチャレンジするのは厳しい」という現実を言われて、変わったような気がします。「第一志望に絶対に行きたい。初日、2日目とも受験する」という本人の意思が固く、志望校を変えようとはせず、第一志望に受かる自分に変わらうとする姿勢を見て、第一志望を受けることが、この子のモチベーションなのだと思います。そこは本人の意思を尊重することにしました。

3 勉強法

ユリウスで使っているNカリキュラムや、講習テキストを繰り返しやることにし、親がなるべくやる所を管理しましたが、この時期何をやるべきか、やる問題のレベルは？など分からないことは、その度塾長に聞きました。塾長は娘のことをよく分かって下さり、的確なアドバイスをいただけて、親もとても支えられました。

受験前は、6年生の模試を解き直し、実際に似た問題が入試に出たところもあったようです。

4 受験期

希望通りにはいかない結果が出るなかで、塾長から受験校の変更を提案していただいた結果、1つ合格出来、精神的にもかなり持ち直しました。模試の偏差値と、実際の合否が当てはまらないこともあることを改めて感じ、学校の出題傾向をよく分かっていらっしゃる先生方のアドバイスはさすがプロだなと思いました。親が内心、心配で一杯のなか、毎日午前、午後、受け切ることができたのは、ユリウスでたくさん宿題や授業数をこなして身に付いた力だと思います。

5 入試を通じて得られたこと

何事にも自信がなかった娘が、学校生活で自信を持つようになったと担任から言われ、受験勉強に取り組んだことが他への自信にもつながったようです。また、子どもと一緒に伴走する親も、自分も頑張ろうと思い、会社での昇任試験を10年ぶりに頑張りました。娘とお互いに頑張りが合うことができ、それを支えて下さったのが、塾の先生や、事務方、塾の仲間だと思い感謝しています。そしてやはり「受験に費やす時間、お金、本人の思い」は報われないと、素直な年頃の小学生には傷として残ってしまうと思われ、どこか1つでも合格することはとても大事なことで感じました。受験のプランニングは、塾や親がうまくいくように、その子の特性も見極め、やらないといけなと分かりました。次は弟が、受験に向けて入塾させていただきました。兄弟でも個性が全く違いますので、不安はありますが、娘の受験で学んだことを生かして、充実した時間にしていきたいと思

っています。

子ども、親ともに信頼して、少人数コースのユリウス T 教室、個別のユリウス M 教室を活用させていただきと思っていますので、これからも宜しくお願いします。受験期の苦しい時に、心に響く言葉をたくさんいただき、本当に有難うございました。

I さん 保護者

「今のままでは、私は合格できないと思う。」

今、娘の中学受験を振り返るにあたり思う事としては、試験が終了からまだ 3 週間ほどしか経っていないにも関わらず、既に遠い昔のように感じます。それだけにこの受験期間が私達保護者にとっても濃厚な時間であったのでしょう。

娘と私達が受験を意識し始めたのは約 3 年前と記憶しています。今回合格した第一志望校については最初から本人が「この学校に行きたい」と希望しており、最後までその気持ちがぶれる事はありませんでした。ユリウスに入塾する前には別の個別塾に通っていましたが、ある日、娘が「今のままでは、私は合格できないと思う。同じ学校を目指す人達と一緒に勉強したい」と言い出した時にはその意志の強さに内心驚きました。

こうしてユリウスで受験勉強を始めて、仲間にも恵まれ、苦しいながらも毎回楽しく塾に通う姿を頼もしく思う一方、本人がどこまで受験というものを理解しているのか、親として受験という過酷な道を選ばせたのは正解だったのか思い悩む事もありました。塾の面談で「現在の第一志望の合格率は 3 割程度」と聞いた時には、内心かなり落ち込みましたが、受験の可否だけが子供にとって全てではないと自分達自身にも言い聞かせていました。志望校に合格する事はもちろん重要ですが、それ以上に私達としては、この受験期間で娘には、まずは「自分の苦手な事に正面から向き合う」、そして「繰り返し練習する」、その結果「努力して出来なかった事を克服する」ことの 3 つを経験して欲しいと考えていました。

受験という特殊な環境下でストレスも溜まる中、特に最後の数か月は親子でぶつかる事も少なからずありましたが、その中で私達も知らなかった娘の一面や内面の成長を見る事ができた機会でもありました。今振り返ると私達親にとって非常に貴重な経験であったと改めて思います。こうした努力の結果、志望校合格を勝ち得た経験は、本人にとっても大きな自信にも繋がったと感じます。

改めてユリウスの先生方には優しく時には厳しく我が子を導き、受験という旅路を伴走いただいた事に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

K さん 保護者

「息子の性格や学力に合わせ、学習プランが立てられ」

性格は超マイペース、勉強はあまり得意ではなく、努力は苦手。そんな息子がどうしても入学したい中学校があり、小 3 から日能研に通っていました。息子の性格上、一人でコツコツ勉強することができず、目指している学校のレベルに程遠く、危機感を持ち小 5 の春にユリウスに入塾しました。ユリウスでは、息子の性格や学力に合わせ、学習プランが立てられ、苦手な所もくり返し学習することができました。また、指導者さんに、勉強以外の生活面の事なども相談ができ、息子の心の支えになって下さっ

ていたと思います。入試直前の冬休みも、毎日ユリウスに通い、授業を受け、その前後に自学をして、一日ユリウスで過ごしていました。自宅よりもユリウスでたくさん勉強することができたと思います。心配事があればいつでも相談にのって下さり、入試が近づき、不安な時も、ユリウスの皆さんが寄り添って下さって、落ち着いて本番当日を迎える事ができました。

目指していた学校をあきらめる事なく、合格できたのは、ユリウスに通塾したからだと思い、皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

Mさん 保護者

「室長先生は本当に僕のことをよく見て下さっているね！」

息子はユリウスに入塾する前には集団塾に通っていましたが、それまでのクラスを落ちてしまった後はモチベーションが下がって授業に身が入らなくなってしまいました。

そこで本人から、以前に体験に行ったユリウスに移って頑張りたいという申し出があり、5年の秋からはユリウスのみで受験までお世話になりました。講師の先生方はみなさん話しやすく、分からないことにはとことんつきあって丁寧に教えて下さり、教室長の先生とスタッフの方も優しく温かく接して下さいるので、息子はユリウスに行く日を楽しみにしているようでした。6年の夏休みには、毎日朝から夕方まで通う日々となり、夏休み明けも授業がない日にも毎日通いました。

ある時、教室長から勧めて頂いた学校見学の際に、息子が「〇〇先生（教室長）は本当に僕のことをよく見て下さっているね！絶対にこの学校に行きたい！」と目をキラキラさせて話し、そこからさらにスイッチが入ったようでした。先生方に過去問の傾向分析や解き方の優先順位を徹底的にご指導頂き、息子はだんだんとコツをつかんだようでした。教室長の「入試当日まで成績は伸びます！」というアドバイスを励みに最後まで諦めない気持ちを強くもって取り組んでいました。当初 20～30 点しか取れなかった過去問は入試直前には 80～90 点まで取れるようになり、「これだけやったのだから大丈夫！」と手応えを感じて入試本番を向けることができました。中学受験を通して、目標に向かって一生懸命取り組んだことは息子の今後の人生の糧になると思います。最後まで優しく根気強くご指導くださったユリウスの先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

Aさん 保護者

「どんな結果になっても世界は終わらない」

娘は内向的な性格のため、大人数の集団塾よりは、少人数で指導していただけるユリウスの方が合っていると思い、入塾しました。

お兄さん、お姉さんの存在の大学生の指導者の方が多かったので、楽しいおしゃべりを交えつつ、勉強に打ち込むことができました。

志望校選びについては、初めから意中の学校があった訳ではないので、少しでも気になる学校があれば学校見学会に行き、実際に自分たちの目で確かめていく中で、自然と行きたい学校が決まっていきました。6年生になると模試や特訓なので週末がつぶれてしまうことが多いので、5年生のうちにたくさんの学校へ足を運んでおく方が良いかと思っています。

入試が近づいてくると娘は明らかに緊張している様子だったので、せめて家の中では少しでもリラックスし、ポジティブな気持ちになれるような声かけを意識していました。「ここまでがんばってきたあなたを誇りに思う。どんな結果になっても世界は終わらないから、あとは楽しんでおいで!」と言って送り出しましたが、それでもやはり本番の緊張は半端なかったようです。2月2日が終わった時点で、第3志望の学校一校のみ合格していた娘でしたが、試験を入れていなかった2月3日にユリウスへ行き、苦手だった算数の指導をしていただいたことで気持ちを立て直すことができたようで、2月4日の試験で第2志望の学校から合格を頂き、入試を終えました。

2月1日～4日の間に入試を受けては即合否が発表され、その度に喜んだり、涙したり、ジェットコースターのように気持ちがアップダウンしましたが、あれだけ見当いていた中で最後まで挑戦し続け、合格を頂けたという経験は娘にとって大きな自信となったことと思います。

教室長の先生をはじめ指導していただいた先生方にはいつも娘に寄り添っていただき、的確なアドバイスをいただきました。本当にありがとうございました。

Jさん 保護者

「先生に質問できなかった娘が、積極的に先生に質問できるように」

6年生の春に突然受検をしたいと言い始めました。もう間に合わないとは思いましたが、学校の成績が良かったので、内申点の比重が大きく、科目数が少ない学芸大学附属国際中等教育学校を目標校に設定することにしました。もともと以前から興味があったことと、一つ上の習い事の先輩が入学したことが重なり、一層興味を持てたことが学校選びの基準となりました。

そうはいっても公立中学受検の知識もノウハウも分からないうえ、学芸国際は「面接」という特殊な受験科目がある事を知りました。その点に詳しい塾を探していたところ、合格者をかつて出したことがあるユリウスさんがとても詳しくお話してくださったので、こちらにお世話になることにしました。

入塾した当初は受検勉強のスピード感に慣れず、何度も塾の先生方と相談させていただきました。非常にマイペースな娘は意に介していないようでしたが、今思えば、彼女なりに少しずつ努力していたのだと思います。

こちらを選んでよかったと強く思ったのは、最後の過去問完成講座が始まった頃です。授業が無い日にも関わらず、先生方が面接練習を幾度となく練習していただきました。この経験が自信となり、本番では落ち着いて周りを見る余裕さえできたようで、帰宅後開口一番「面接はうまくいった」と言っていました。

先生に質問できなかった娘が、積極的に先生に質問できるような環境づくりをしてくださったのも、少人数でアットホームなユリウスならではのと思っています。受検という大きなイベントの陰で、人間的に成長することが出来たので、とても良い経験をさせていただいたと感謝しています。

Kさん 保護者